

乍恐口上之覺

一 大谷九右衛門 恃政太郎當年江戸へ罷越申
年數ニ相当り申候、然共未若年ニ御座候ニ付
私儀政太郎為名代_与御目見ニ江戸へ
可被遣之由兎角_者奉畏候、併政太郎
勝手去々年よりひしとつふれ、其上他借
銀御座候、尤九右衛門所持仕候借宅畠諸道
具御存被遊候通壳拵申仕合ニ御座候へハ
去々年より一家_者私手前へ引請養育
申候、恠成仁仕候迄_者何とぞ介抱仕遣シ
九右衛門名跡相続仕らせ申度、諸事
肝煎遣シ申候、然所ニ兩年竹嶋不慮之
儀ニ付大分之損失仕、其外私手前_{ニ而茂}
近年諸事大分之損仕、両家共不

勝手ニ罷成、彼是ひしとつふれ難儀仕候
御威光を以江戸へ罷下り申候段難有_者
奉存候得共右申上通り之勝手むきニ御座候
得_者、何共江戸相勤可申心當無御座迷
惑仕居申候、近比恐多申上事ニ御座候得共
何とぞ御銀四貫五百目拝借被為

仰付被下候ハヽ難有可奉存候、御銀返上之
儀ハ年々ニ御取被為遊被下候様ニ是又
乍恐奉願候、右之趣御次_而之刻

御公儀様_江被為仰上可被下候奉願上候、已上

元禄六年

八月十八日

大谷藤兵衛

山内清右衛門様

安見喜兵衛様